

国際金融パネル：IMF 改革と今後の課題

明治大学 勝 悦子

エマージング諸国経済の急速な台頭、民間資金フローの急増、および国際金融市場の一層の統合といった世界経済の構造変化のもと、国際金融システムの安定を負託された IMF は近年その役割が大きく変貌している。2004年に IMF は60周年を迎えたがこれを契機に、2005年9月の総会では「中期的戦略(medium term strategy)」が打ち出された。本年4月の IMFC (国際通貨金融委員会) では同戦略の実施に関する専務理事報告が検討され、今後速やかに実施される見通しとなっている。同戦略は、21世紀のグローバル経済のもとで IMF がどうあるべきかを検討するもので、①IMF サーベイランスの刷新、②エマージング諸国における IMF の役割変化、③世界の貧困への取組み、④IMF のガバナンスのあり方、など様々な内容からなっている。

本パネルでは、21世紀のグローバル経済のもとでの IMF の役割を再評価し、IMF 改革のあり方、今後の課題を探ることを目的とする。すでにアジア通貨危機を契機とした国際金融アーキテクチャー刷新の議論で IMF の機能について多くのアイデアが出されてきたが、とりわけ民間資金フローの急増とエマージング諸国のプレゼンス増大に焦点をあて、IMF がどのようにあるべきかを再検討する。論点としては、①アジア諸国を含むエマージング諸国の出資比率の見直し、②グローバルサーベイランスのあり方、③内部ガバナンス、④IMF のマクロ分析モデル・コンディショナリティの再評価、⑤エマージング諸国の通貨制度への関与など、多角的な議論を行う。すでに IMF は民間資本移動の激化に対応するため本部内に国際資本市場部 (International Capital Markets Department) を新設し市場監視の姿勢を強めており、またアジア通貨危機後のプログラム批判のもとで独立評価局を新設したが、これらについても検討する。

有吉氏には、「IMF の中期戦略 - グローバリゼーションへの対応」というテーマで、IMF の中期的戦略を踏まえ、クォータ見直し、Multilateral Surveillance の創設、新たな危機対応のための Facility の創設などについて議論していただく。渡辺氏には、「エマージング諸国の台頭と IMF の役割」として、エマージング諸国の世界経済に占めるプレゼンスの増大、同諸国をめぐる資金フローの拡大、通貨危機の発生、地域内経済・金融協力の深化といった環境変化の中で IMF の役割がどう変わるべきか、さらにガバナンス問題について議論していただく。渋谷氏には「国際金融市場の発展と IMF の役割」というテーマで、国際金融市場の進展のもとでの今後の IMF の役割、および必要な改革について議論していただく。最後に日本の国益と IMF のあり方についても議論を行う。